

エストニア共和国首相 祝辞スピーチ《要旨》

- エストニアが、デジタル社会を構築してすでに 15 年以上経っています。エストニアでは、その数々のデジタルソリューションが、真に国民や企業、政府の日々の生活や仕事の進め方を変えました。それゆえに、エストニアはしばしば、e-Estonia と呼ばれることがあります。
- 今まで他の言語で e-Estonia の軌跡や数々の施策について紹介した書籍はそれほど多くはありません。今回この書籍（未来型国家エストニアの挑戦）が日本の皆さんに読んで頂けるようになったことは、とても素晴らしい事だと思います。
- 日本は今、デジタルエコノミーやデジタル社会に向かって重要なステップを踏み出そうとしています。我々は、特に日本のマイナンバーなどデジタル ID 導入への取り組みを称賛しています。国全体で取り組む規模としては、最初の大国になると思います。我々は、その過程においてエストニアの国民 ID のノウハウが役立つことを誇りに思うと同時に大変嬉しく思っています。
- エストニアのノウハウとソリューションを共有することで、マイナンバーもまた、日本とエストニアが協力して進めた実例の一つにできると思います。スマートシティやスマートガバメント、そして各産業の企業がニューエコノミーへの対応をしていく際、その阻害要因となるサイバーセキュリティの分野において、我々はより多くの協力が可能です。
- 将来の素晴らしいデジタル社会を共に創っていくために、両国の政府レベルと企業レベルの両面で協力関係を創っていくことが重要です。
私はこの書籍が両国の様々なジョイント施策のベースとして活用されることを願っています。
- 著者である前田氏とアリキヴィ氏に感謝の意を表したいと思います。

注記：本スピーチ要旨は、エストニア共和国首相ターヴィ・ロイヴァス氏が当日スピーチされた内容から、当協議会が独自で要旨を作成したもので、当スピーチの翻訳ではないことをご了承ください。

日本・エストニア/EU デジタルソサエティ推進協議会(JEEADiS)